

◆新技術定着試験事業

糸満地域プロジェクト計画作成支援

水産海洋技術センター 紫波俊介

1. 目的

漁業者と連携したケンサキイカ・トビイカ漁業開発や、アカイカ資源の活用等の新たな漁船漁業開発への取り組みに協力・助言を頂いていた糸満漁協・組合員より、「もうかる漁業創設支援事業」を活用し、新たな漁業の確立にチャレンジしたいとの依頼を受けた。

新たな漁業開発を盛り込んだ、改革型漁船による収益性改善を図る地域プロジェクト計画作成の為、糸満地域プロジェクト協議会委員として参加し、助言を行う等の支援を行う。

2. 方法・結果

下記取組を漁業者・漁協職員等と共に実施した。

(1) 糸満地域プロジェクト協議会(計4回、以下「協議会」という)

第1回(10月31日)、第2回(11月24日)、第3回(1月22日)、第4回(3月13日)に委員として出席した。下記取り組みも踏まえ、19t未満の急速凍結機を備えた漁船により、マグロ・ソデイカ漁業を基軸としつつ、未利用・低利用資源であるケンサキイカ・トビイカ・アカイカの漁業確立に取り組む実証事業とする方針となった。

(2) 調査研究(急速凍結漁業・アカイカ石川県視察1月22~24日)

全漁連と調整を行い、下記視察を提案、実施した。視察は大城組合員、西村組合員、大城課長、当職が参加した。また、各所には全漁連担当職員より案内頂いた。

①急速凍結イカ漁業先進地視察

石川県漁業協同組合(小木)にて急速凍結庫を備えた中型イカ釣り船を視察し、船内構

造・急速凍結処理方法・梱包用品等について知見を深めた。

②アカイカ加工視察

コンビニエンスストア等に商品を卸し、農林水産大臣賞を受賞している加工会社 舳倉屋に視察を行った。同社へは全漁連12月に漁獲した沖縄産アカイカサンプルを送り加工試作を依頼していた。品質については、十分アカイカ製品として耐えうる品質との評価を受け、次年度実施する「アカイカ新たな水産業開発事業」に協力頂くこととなった。

(3) 漁協・漁業者・普及員意見交換会(2月9日)

協議会では、なかなか議論が深まらず、方向性が定まらないとのことから、意見交換会が開催され、糸満漁協域間参事、調査研究参加者4名が出席した。

大城課長より調査研究結果、当職より現在までのケンサキイカ・トビイカ・アカイカ取組結果報告を行った。

組合員からは「ソデイカ漁場の縮小、資源の減少は明日にでも起きるかもしれない不安点。経営がうまくいっている間に新しい漁業に挑戦したい。県の力も借りたいし、引き続き協力したい」との意見があった。

結果、第4回協議会でのプロジェクト計画面には急速凍結機を備えた漁船にてケンサキイカ・トビイカ・アカイカ漁業に取り組む事を盛り込むこととなった。

4. 考察

糸満漁協の主力漁業であるマグロ・ソデイカ漁業はソデイカ単価の上昇や、後継者育成しやすい点から、漁業経営も良く、20代の

参入者も出ている。しかしながら、ソデイカ資源も有限であり、単価上昇もいつまで続くかは不透明である。

よって、東シナ海域の活用・管理、単年性のイカ資源の利活用は今後重要性を増していくことと考えられる。

しかしながら、新たな漁船漁業の開発には、県だけでは知見・操業技術が不足、また、広い海域を調査することは困難である。

今回の組合員の言葉にあるよう、漁業者の

経営が良好なうちに、漁業者と連携調査や施策を活用した活動支援を行うことが、新たな漁業開発には重要だと思われる。

もうかる漁業創設支援事業の事業計画作成は、本活動が初めてであるため、今後地域漁業活性化にあった同事業の活用を進めていきたい。



中型イカ釣り船急速凍結冷凍庫内。上部はアルミにて冷却



焼きイカ製造（アメリカオオアカイカ）



漁協・漁業者・普及員意見交換会